

新型コロナウイルス感染症対応についての確認事項（岐阜工業高等専門学校）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

回答欄	根拠資料・データ（提出は任意）
<p>教育課程の実施，授業の方法等については，後期からは，学年，学科ごとに，対面授業と遠隔授業の比重を変えた全クラス登校，半数登校，完全遠隔を組合せて実施した。高専教育の特色である実験・実習・製図系の実技系科目では，複数の実験室等に分散して全クラス登校をできるだけ前倒して実施した。また，講義系科目は1クラス2教室分散やクラスの半数を1教室，週替わりで登校するなど，双方向の対面授業による学生の理解度を促している。さらに，各授業科目の学修成果は，LMS（Moodle）に蓄積され，Teamsによる授業録画再生とともに，学生の自学自習ができる環境が構築されている。</p>	<p>C-1-01 「後期における授業形態別の特別授業時間割」</p> <p>C-1-02 「岐阜高専におけるハイブリッド授業への展開」</p>
<p>各学科の取組は以下のようである。</p> <p>（機械工学科）LMSを使った平常時以上の各種資料提示やTeamsを使った授業の録画，チャット・メールを使った質問対応。</p> <p>（電気情報工学科）リモートデスクトップをフル活用し登校時と変わらない授業を実施。課題の提示・提出も電子的に管理しており，透明性が高く，質も維持している。</p> <p>（電子制御工学科）実験，実習，製図，情報処理では，実験動画，電子部品などの送付，無料のシミュレーションソフト，無料のCADソフトを用いて自宅での実験実習を実施，講義動画，講義資料の視聴中に教員が質問対応。授業録画の再視聴による復習，LMSでの問題，毎回授業の課題（授業内，時間外）の提出で理解度を確認している。</p> <p>（環境都市工学科）実験実習系を特定の対面日に実施できるよう特別時間割策定と仕組みの整備，LMSで出欠と振り返りによる出席管理。</p> <p>（建築学科）建築設計製図では，学生，教員とも遠隔機器の扱いに不慣れな中，学生は初めての本格的な設計課題に取り組む。通常は1名体制で指導するが，サポート教員が同時にTeamsに入って，手分けして，アイデアチェックや書き方などを指導し，設計能力の向上を図った。</p>	

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

回答欄	根拠資料・データ（提出は任意）
<p>各学科の学生の学習支援は以下のようである。</p> <p>（機械工学科） LMSを使った平常時以上の各種資料提示やTeamsを使った授業の録画、チャット・メールを使った質問対応。</p> <p>（電気情報工学科） レポート提出に関して、支援の必要な学生には複数教員であたり学習支援。</p> <p>（電子制御工学科） 授業後の質問はTeamsチャット、メールで対応、課題提出、出欠の確認などを授業担当者、担任、非常勤の場合はサポート教員と連携してサポート、自宅のパソコンにソフトウェアがインストールできない場合はリモートデスクトップでサポート。</p> <p>（環境都市工学科） 授業についての学生からの意見を定期的に集約して学科で共有している。後期は月末に3年～5年学科全学生に遠隔授業等に関する調査を行い、翌月の3年生以上について学生の意見を反映させ部分登校をさせないなどの対応を行っている（10,11,12月実績）。</p> <p>（建築学科） 学科でパソコンの貸出しを行い、遠隔授業の環境を整えた。学習の取組みが進まない学生には、家庭訪問を行い学習の支援を行った。</p>	
<p>キャリア支援室では、複数のシニア教職員により学習や進路相談に対応し、必要に応じて、専門学科教員と連携している。また、TOEIC-IPや技術英語検定などの学内受検に対応して、図書貸出し等を実施している。大学編入学等の進学については、募集要項をLMSにより学内公開し、必要な手続きを経て過去問題が入手できるようにしている。</p>	<p>C-2-01 「キャリア支援室における学習支援」</p>
<p>手洗い場の新設</p>	
<p>教室・トイレ・喫煙所などへの感染対策掲示</p>	
<p>各学科毎に昼食場所の設定と巡回指導</p>	
<p>非接触型検温器の校内設置</p>	<p>:</p>

3. 新型コロナウイルス感染症に対応して、寮における安全対応について行った取組の概要を確認したい。

回答欄	根拠資料・データ（提出は任意）
<p>二人部屋を全て解消し、全室を個室化した。</p>	
<p>食事や入浴時間を指定時間制とした。</p>	

食堂定員を半数以下にすると同時に、対面ができないようテーブルや椅子のレイアウトを見直した。	
選択式だった食事メニューを一種類とし、ご飯・汁・調味料など、セルフで行っていた配膳を全て取りやめた。	
食堂入口に、非接触式の赤外線体温計を設置した。	
週に2回実施だったゴミ捨てを毎日とした。	
各階の談話室や個室トイレの全室にアルコール消毒用のスプレーを配置。	
対面点呼からLMSを利用した検温報告形式に変更した。その為のシステムを、本校教員に依頼作成した。	:

4. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の課外活動について行った取組の概要を確認したい。

回答欄	根拠資料・データ（提出は任意）
新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの作成	
全クラブ対象「クラブ活動チェック事項」の作成	C-4-02 「クラブ活動チェック事項」
各クラブごとの感染対策用紙の作成集約	C-4-03 「柔道部活動中における新型コロナ感染対策」
各クラブへ消毒セットの貸し出し	
課外活動参加者数の限定と活動時間の短縮設定	:

5. 新型コロナウイルス感染症への対応として、遠隔授業に関するFDの実施により、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている事実があるか確認したい。

回答欄	根拠資料・データ（事実がある場合は提出してください）
<p>本校では、4月7日に全教員を対象にした遠隔授業に関するFD研修会（Teams配信）を実施した（参加者60名、欠席者は録画視聴）。また、4月9日に全教員を対象にした学習管理システム（LMS：Moodle）の講習会（Teams配信）を実施した。LMSについては、教育AP事業により多くの教員が利用していたが、本格的に正規の教育課程内に組込む必要があるため、4月は移行期間として設定し、授業時間割にしたがって順次、LMSとTeamsを組み合わせた授業を展開した。なお、データダイエットの観点から、スライド等を利用した配信と録画を基本とした。これらの資料は、教員向け遠隔授業・授業実施ノウハウとして、LMSに公開し活用されている。</p> <p>さらに、各学科では、学科会議でのTeamsやLMSの講習会やTeams内での遠隔授業ノウハウの情報共有が蓄積されている。以上により、非常勤講師を含めた全教育課程において、LMSとTeamsを利用した授業が展開されており授業改善に結びついている。</p>	<p>C-5-01 「遠隔授業用教室の使い方」</p> <p>C-5-02 「学習管理システムMoodle講習会」</p> <p>C-5-03 「教員向け遠隔指導・授業実施ノウハウ」</p>

授業を受講する学生の健康管理（体温等）を毎日可視化するために、正規の教育課程に導入している学習管理システム（LMS：Moodle）内に構築している。9月からの段階的登校（段階的開寮）に先立ち、学生情報を2週間に遡って可視化できるように修正し、学級担任（25名）および関係者を合わせた35名の講習会を8/25に実施した。

C-5-04_「学生用健康情報確認サイトの使い方」